

研修医レター



和歌山県医師会

〒640-8514 和歌山市小松原通1丁目1 県民文化会館

電話(073)424-5101代 FAX(073)436-0530

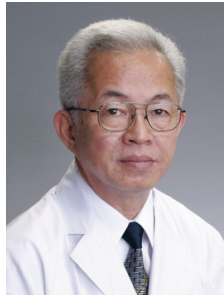
E-mail: ishikai@wakayama.med.or.jp

平成27年6月発行

研修医の皆様方へ

和歌山県医師会ではこれからの日本の医療を担っていく研修医の皆様「医師会」という組織や、その活動の一端をお知らせし、理解して頂き、また皆様方からの率直な御意見もお聞きできれば、という双方向の関係を築く目的で「研修医レター」を発行させて頂くことになりました。その中には、女性医師の皆様これらの指標となるようなコーナーもございます。研修医の皆様を含め、多様な御意見等をお待ちしております。

日赤和歌山医療センター院長
百井 亨先生



当センターの新医師臨床研修は定員12名で出発し、京都大と徳島大の“たすき掛け”が毎年2～9名加わり、これまでに158名(和歌山県出身38名、女性42名)が初期研修を修了しました。出身は33大学に及び、この他に自治医大6名(女性3名)も修了しました。初期研修に引き続き62名(39.2%)が当センターで後期研修に進みました。158名が専攻した分野は消化器内科(14名)、外科(13名)、小児科(12名)、整形外科(9名)、放射線科、循環器科(各々7名)、神経内科、産婦人科、脳外科、腎臓内科、耳鼻科、麻酔科(各々5名)、糖尿病・内分泌、血液内科、呼吸器内科、救急(各々4名)、眼科、乳腺外科、集中治療、泌尿器科(各々3名)、形成外科2名、小児外科、心臓外科、皮膚科、呼吸器外科、地域医療、リハビリテーション科、病理、各々1名などです。さらに2名が厚労省医系技官の道へ進むなど、全国から集まった多彩な人材が互いに刺激し合っ、様々な分野で活躍する人材に育っています。

日本医師会 臨床研修医支援ネットワーク Resident Support Network (RSN)

日本医師会では、臨床研修医の皆様を支援するため、日本医師会の事業のうち、広く利用できるサービスを無償提供しています。

対象

・臨床研修医

登録・利用料

・無料

利用期間

・臨床研修期間中

登録方法

日本医師会ホームページ
臨床研修医ネットワーク

<http://www.med.or.jp/rsn/>

サービス内容

- 日本医師会会員専用ページの閲覧
- 日医医学図書館の利活用
- 日本医師会雑誌のPDF閲覧
- 生涯教育オンラインの利活用
- 日医シロクマ通信の配信
- 日医会員特別割引ホテルオンラインサービスの利活用
- その他情報(武見フェロー等)の配信 等

「子ども・子育て支援新制度」

平成27年4月から本格スタートしました。

すべての子どもたちが、笑顔で成長していくために。
すべての家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられるために。

こんな取り組みを進めていきます！

- 1) 幼稚園と保育所のいいところをひとつにした「認定こども園」の普及を図ります。
- 2) 保育の場を増やし、待機児童を減らして、子育てしやすい、働きやすい社会にします。
- 3) 幼児期の学校教育や保育、地域の様々な子育て支援の量の拡充や質の向上を進めます。
- 4) 子どもが減ってきている地域の子育てもしっかり支援します。



新制度の詳細な内容を知りたい方は

<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/index.html>

内閣府 子ども・子育て支援新制度

検索

講演会等のお知らせ

第46回和歌山県皮膚科医会 学術講演会

日時：平成27年6月27日(土) 16:00～

場所：ホテルグランヴィア和歌山

6階 ル・グラン

〈特別講演〉

座長：和歌山県立医科大学皮膚科

教授 古川福実先生

演題：アトピー性皮膚炎(AD)の

長期マネジメント

講師：東京慈恵会医科大学皮膚科学教室

教授 中川秀己先生

先輩医師の体験記

(医) 齧友会安川診療所

安川 修先生



私は人の死に立ち会うのは大嫌いであった。病院勤務時代、亡くなりそうな方を担当すると、いつもそのことが頭から離れず、何をしても心の安まる時がなかった。

ところが二十年以上前、在宅で最初の看取りを行った時、どこか病院での最期とは違う印象を持った。そして百、二百と看取りを重ねて行くうちに、私は何故あれほど人の最期に立ち会うことが嫌だったのか、その理由を知ることになったのである。答えは簡単。「私は人の死を学んでいなかったから」である。医学教育でも卒業後の医療現場でも、たたき込まれるのは人を救う知識と技術がすべてであり、そこにある「死」は医療の限界としての結果にすぎず、深く洞察することもない。知らないことは恐怖を巻き起こし、私はその恐怖の対象を真正面から見据えることができず、助ける為の医療でもって、ただ闇雲に死に対して戦いを続けて来たにすぎなかったのである。

老いさえも病気に置き換え、徹底的に死を隠す社会で住む私達は、医療者も含め、死にどう対応すべきかといった、人としての大切な何かを忘れてしまった。そして亡くなる人を病院に送り込むことを当たり前と思うようになり、死を学んでいない医療者達が死さえも治療の対象としている。

住み慣れた地域で最期まで・・・そんな言葉で患者を病院から在宅に移す仕組みを作ろうと躍起になっているが、かつてのように在宅で最期を迎えることが普通でなくなったのは在宅看取りの仕組みがなくなったからではなく、哀しみながらも大切な人を自分達で看取るという文化を失い、死を忘れ、恐れの対象としてしまったからに他ならない。

「じいちゃん、お迎え来た?」「迎えって何や?」「死んだお母ちゃんとかジロウ(死んだ犬の名前)とか、枕元に来た?」「いいや、まだ来てへんな」「なら、まだ逝かれへんなあ」在宅での看取りを続けるうちに、私はあれほど苦手だった死に逝く人のそばに居ることが、いつの間にか嫌ではなくなってきている。

◆地域医療情報システムの紹介◆

日本医師会ではホームページにて地域医療情報システム(JMAP)を公開しております。JMAPは、各都道府県医師会、郡市区医師会や会員が、自地域の将来の医療や介護の提供体制について検討を行う際の参考、ツールとして活用していただくことを目的として、日本医師会が運営しています。

jmap.jp/ 日本医師会 JMAP

うっかりドーピング! ご注意ください。



2015 紀の国 わがやま国体

第70回国民体育大会

2015(平成27)年9月26日(土)~10月6日(火)



2015 紀の国 わがやま大会

第15回全国障害者スポーツ大会

2015(平成27)年10月24日(土)~10月26日(月)

紀の国わかやま国体・大会許可 27第5-16号

お薬に関する問い合わせは和歌山県薬事情報センターへ

受付時間: 月~金 9:00~18:00
(2015紀の国わかやま国体中は24時間対応)

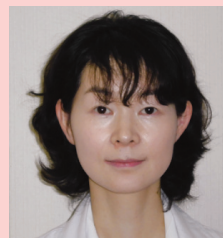
Eメール: doping@wpa.or.jp

TEL: 073-433-0166 FAX: 073-424-3353

先輩女性医師による〈ワークライフバランス〉

国立南和歌山医療センター

木下 真樹子先生



1999年に地元愛媛の医学部を卒業し、夫の勤務地の和歌山で医師生活をスタートして以来16年となる女医です。その間、5人の子どもを授かりました。研修医1年目で長男を出産した際は1年間の育休を取得。研修終了後に長女を出産の際は、パート勤務に転向。次女出産後は自宅で限定的に開く診療所を開設し、家事・育児をしながら医療に携わる工夫をしました。

夫の研修先の長野県で3女を出産後は、研修医以来だった内視鏡を勉強し直し、現在は南和歌山医療センターで夫の専門領域と重なる消化管悪性腫瘍の内視鏡診断と早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術を専門としています。今年2歳になる4女出産を契機に、夫婦でそれぞれのワークライフバランスについて話し合いました。その結果、消化器科と外科の掛け持ちで超多忙だった夫が育児短時間勤務を取得して家庭中心の生活に入り、私は取得の機会を逃していた内科認定医、内視鏡専門医、消化器病専門医の取得のため十数年振りに病棟に復帰することになりました。今年、内科認定医試験を、来年に各種専門医試験を受験予定です。

医師としてのキャリア形成と妊娠・出産・育児のバランスを取るの是非常に困難です。完全な形での両立は不可能で、どこかに必ずひずみが出るものです。医師業を優先させて、育児、家事を外注し親族や他人に任せるという選択もあり得ましたが、私たちは自分達の手で子育てをするスタンスを大切にしたいと考えています。

私の病棟復帰に際して夫が育児短時間勤務を取得したことに対して、内外で様々な反響を呼びました。しかし二人共が医師業を優先させたら育児は不可能です。母乳以外の育児、家事に対する潜在能力は男性も女性も同等のものがあります。この間、夫は育児、家事のスキルを身につけて人間力が更にアップしました。子持ちの医師夫婦の一つのロールモデルとなれば幸いです。

決定! 第4回日本医療小説大賞

(日本医師会主催、厚生労働省後援、新潮社協力)

本賞は、国民の医療や医療制度に対する興味を喚起する小説を顕彰することで、医療関係者と国民とのより良い信頼関係の構築を図り、日本の医療に対する国民の理解と共感を得るとともに、わが国の活字文化の推進に寄与することを目的として、平成23年度に創設されました。対象は医療をテーマにした小説、あるいは医療を素材として扱っている小説(ノンフィクションは除く)としており、今回は平成26年1月1日から12月31日までに書籍化された46作品の中から、下記の4作品を候補作品として決定し、最終選考により「鹿の王」上橋菜穂子氏が大賞に選ばれました。また、2015年本屋大賞にも選ばれております。一読してみませんか。

- 1) 流転の細胞 仙川 環 (新潮社)
- 2) 末闘病記 膠原病、「混合性結合組織病」の笹野頼子 (講談社)
- 3) 鹿の王—生き残った者(上) 還って行く者(下) 上橋菜穂子 (角川書店)
- 4) トオリヌケ キンシ 加納朋子 (文藝春秋)



(文責: 和歌山県医師会理事 木下 智弘)